

大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る  
事後調査報告書  
(平成23年6月分②)

大 阪 市 港 湾 局  
大阪湾広域臨海環境整備センター

# 目 次

## I 事後調査の概要

- 1. 調査概要 ..... I - 1
- 2. 工事の実施状況 ..... I - 2
- 3. 調査結果の概要 ..... I - 3

## II 事後調査結果

- 1. 陸域生態系（鳥類） ..... II - 1

## I 事後調査の概要

## 1. 調査概要

「大阪港新島地区埋立事業及び大阪沖埋立処分場建設事業に係る事後調査計画」に基づく平成23年6月分②の事後調査の概要は表-1に、調査地点の位置は図-1に示すとおりである。

表-1 事後調査の概要（平成23年6月分②）

### (6) 陸域生態系(鳥類)

調査項目	調査範囲・地点	調査期間等	調査頻度
鳥類の生息状況	4点 【a、b、c、d】	6月17日	4回/年 (5月、6月、8月、2月) (2年おきに実施)

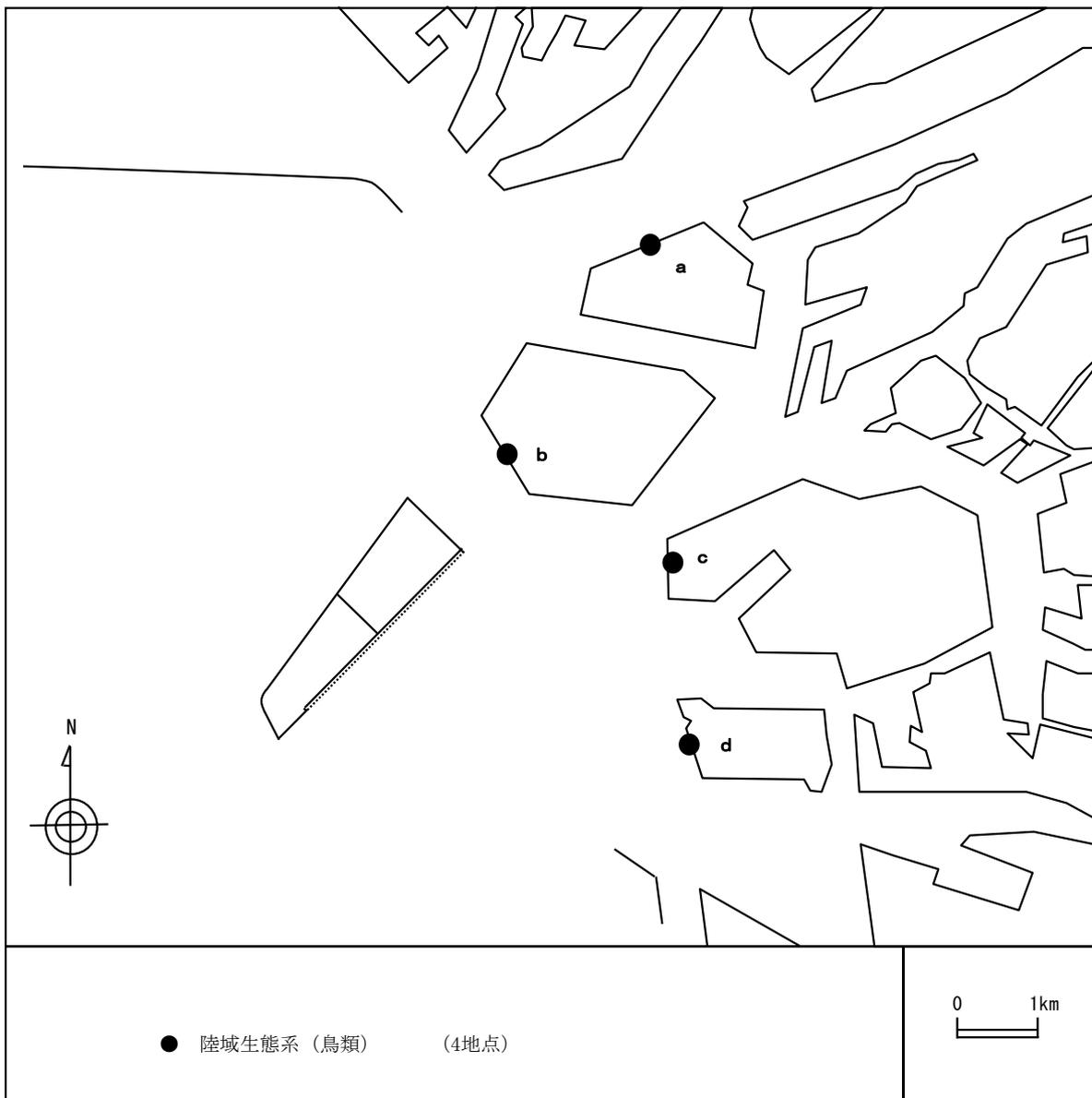


図-1 陸域生態系(鳥類)の調査地点（平成23年6月分②）

## 2. 工事の実施状況

平成 23 年 6 月の工事の実施状況は、図-2 に示すとおりである。

大阪沖埋立処分場平面図

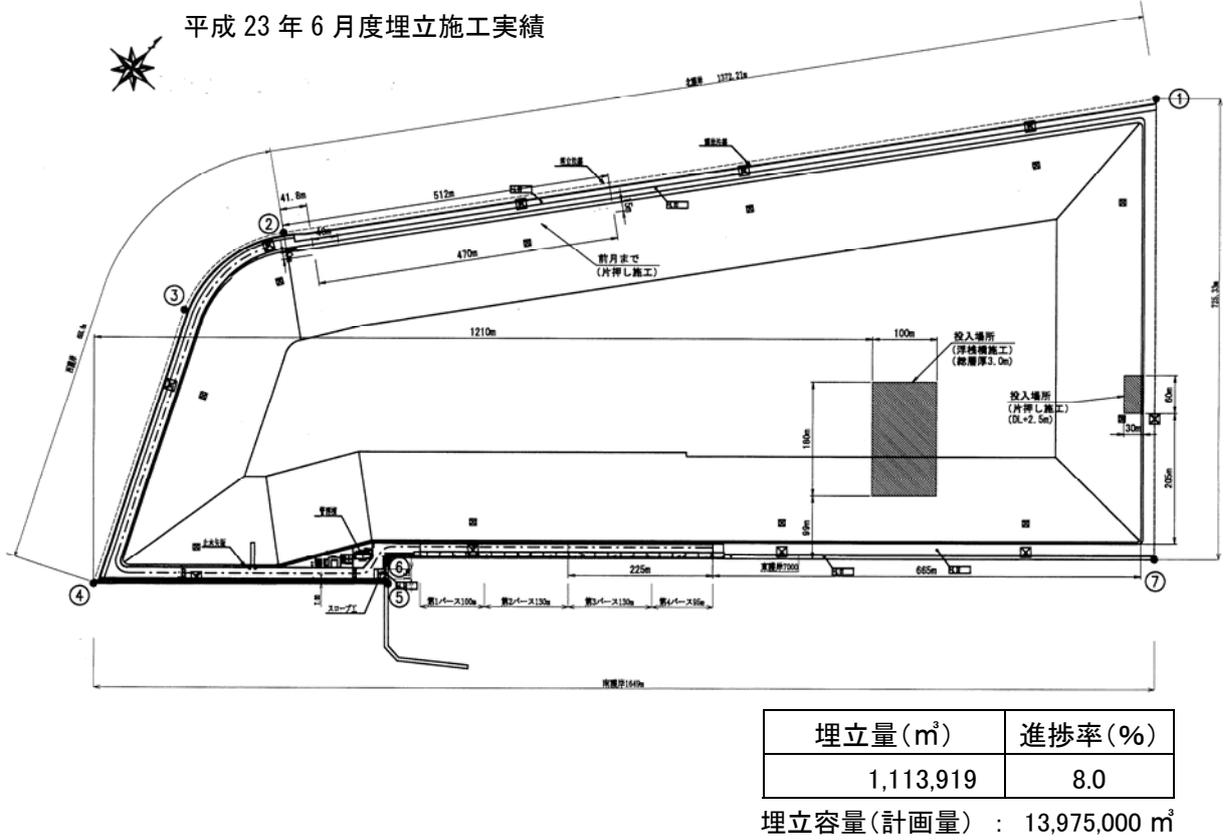


図-2 工事の実施状況 (平成 23 年 6 月)

### 3. 調査結果の概要

#### (1) 陸域生態系（鳥類）〔陸域生態系（鳥類）様式第1～3号（埋立地関連）〕

鳥類の出現種類数は、4地点合計で7目17科29種であった。

調査地点別の出現個体数についてみると、調査地点bが最も多く246羽であり、次いで調査地点cの96羽、調査地点dの78羽、調査地点aの44羽の順であった。また、調査地点別の出現種類数についてみると、調査地点cが最も多く19種であり、次いで調査地点bの16種、調査地点aの12種、調査地点dの11種の順であった。

個体数が最も多かった調査地点bにおける主要な出現種はカワウ（ペリカン目ウ科）、カルガモ（カモ目カモ科）、コアジサシ（チドリ目カモメ科）、スズガモ（カモ目カモ科）、ヒバリ（スズメ目ヒバリ科）であった。

事業実施前（平成10年6月：調査地点の位置は、平成23年度調査の調査地点と同じ）に実施した鳥類調査の結果は、4地点合計で9目19科26種であり、同程度の結果であった。

## II 事後調查結果

陸域生態系（鳥類）様式第1号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（種別出現状況）[平成23年6月]

調査日：平成23年6月17日

目	科	種	区分	地点別出現個体数				
				a	b	c	d	計
ペリカン	ウ	カワウ	留鳥	13	164	1	20	198
コウノトリ	サギ	ダイサギ	留鳥			1		1
		チュウサギ	旅鳥			1		1
		コサギ	留鳥			1		1
カモ	カモ	アオサギ	留鳥		1	6	2	9
		カルガモ	留鳥	2	19	32	2	55
		ハシビロガモ	冬鳥		2	1		3
		ホシハジロ	冬鳥		5			5
		スズガモ	冬鳥		8			8
タカ	タカ	ミサゴ	留鳥	1				1
		トビ	留鳥	1				1
チドリ	チドリ	コチドリ	夏鳥		5	9	1	15
		イカルチドリ	留鳥			4		4
		シロチドリ	留鳥			3		3
	シギ	キアシシギ	旅鳥			1		1
	カモメ	アジサシ	旅鳥		3		3	6
		コアジサシ	夏鳥	3	17	2	25	47
ハト	ハト	キジバト	留鳥			1	2	3
スズメ	ヒバリ	ヒバリ	留鳥	1	6			7
	ツバメ	ツバメ	夏鳥			6	5	11
	セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	3	3	1	2	9
	ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	3				3
	ウグイス	オオヨシキリ	夏鳥		3			3
		セッカ	留鳥	2	3	1		6
	ホオジロ	ホオジロ	留鳥		1			1
	ハタオリドリ	スズメ	留鳥	3	3		1	7
	ムクドリ	ムクドリ	留鳥	4		9		13
	カラス	ハシブトガラス	留鳥	8	3	6	15	32
(ハト)	(ハト)	(ドバト)	—			10		10
合計（7目17科29種）			目数	5	5	6	6	7
			科数	11	11	12	10	17
			種類数	12	16	19	11	29
			個体数	44	246	96	78	464

注) 1. 種名および区分は、大阪府鳥類目録2001（2002年（財）日本野鳥の会大阪支部）に準拠した。

2. ドバトは外来種であるため、目名、科名および種名に（ ）を付記した。

3. ハト目ハト科については、重複を除いて集計を行なった。

陸域生態系（鳥類）様式第2号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（主な出現種の構成割合）〔平成23年6月分〕

調査日：平成23年6月17日

区分		地点別出現個体数				
		a	b	c	d	計
出現 状況	目	5	5	6	6	7
	科	11	11	12	10	17
	種	12	16	19	11	29
出現個体数		44	246	96	78	464
主な出現種  (個体数、 組成比率)	カワウ (13羽、29.5%)	カワウ (164羽、66.7%)	カルガモ (32羽、33.3%)	コアシサシ (25羽、32.1%)	カワウ (198羽、42.7%)	
	ハシブトガラス (8羽、18.2%)	カルガモ (19羽、7.7%)	(ドバト) (10羽、10.4%)	カワウ (20羽、25.6%)	カルガモ (55羽、11.9%)	
	ムクドリ (4羽、9.1%)	コアシサシ (17羽、6.9%)	コチドリ (9羽、9.4%)	ハシブトガラス (15羽、19.2%)	コアシサシ (47羽、10.1%)	
	コアシサシ (3羽、6.8%)	スズガモ (8羽、3.3%)	ムクドリ (9羽、9.4%)	ツバメ (5羽、6.4%)	ハシブトガラス (32羽、6.9%)	
	ハクセキレイ (3羽、6.8%)	ヒバリ (6羽、2.4%)	アオサギ (6羽、6.3%)	アシサシ (3羽、3.8%)	コチドリ (15羽、3.2%)	
	ヒヨドリ (3羽、6.8%)		ツバメ (6羽、6.3%)			
	スズメ (3羽、6.8%)		ハシブトガラス (6羽、6.3%)			

注) 1. 表中の主な出現種は、各地点別の優占種上位5種を示した。

2. ドバトは外来種であるため、( ) を付記した。

陸域生態系（鳥類）様式第3号（埋立地関連）

陸域生態系（鳥類）調査結果（科別出現状況）[平成23年6月]

調査日：平成23年6月17日

調査地点		a	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ	1	29.5
2	カラス	1	18.2
3	ムクドリ	1	9.1
4	カモメ	1	6.8
	セキレイ	1	6.8
	ヒヨドリ	1	6.8
	ハタオリドリ	1	6.8
8	カモ	1	4.5
	タカ	2	4.5
	ウグイス	1	4.5
11	ヒバリ	1	2.3

調査地点		b	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	ウ	1	66.7
2	カモ	4	13.8
3	カモメ	2	8.1
4	ヒバリ	1	2.4
	ウグイス	2	2.4
6	チドリ	1	2.0
7	セキレイ	1	1.2
	ハタオリドリ	1	1.2
	カラス	1	1.2
10	サギ	1	0.4
	ホオジロ	1	0.4

調査地点		c	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモ	2	34.4
2	チドリ	3	16.7
3	ハト	2	11.4
4	サギ	4	9.4
	ムクドリ	1	9.4
6	ツバメ	1	6.3
	カラス	1	6.3
8	カモメ	1	2.1
9	ウ	1	1.0
	シギ	1	1.0
	セキレイ	1	1.0
	ウグイス	1	1.0

調査地点		d	
順位	科名	種数	優占率 (個体数%)
1	カモメ	2	35.9
2	ウ	1	25.6
3	カラス	1	19.2
4	ツバメ	1	6.4
5	サギ	1	2.6
	カモ	1	2.6
	ハト	1	2.6
	セキレイ	1	2.6
9	チドリ	1	1.3
	ハタオリドリ	1	1.3

注) 優占率の合計は、四捨五入の関係により100.0%にならないことがある。